

== 特集 ===== 学位について

市立札幌病院病理診断科 石井 保志

私は平成23年に卒業後、市立札幌病院で初期研修を行いました。当初は呼吸器内科医を目指していましたが、病理診断科をローテートした際に病理学に興味をもち、そのまま後期研修医としてお世話になっています。「病理医と学位」というテーマについて拙いながら私なりに考えを書きたいと思っています。私の同期の人達の多くがそうであるように、病理医を目指す上では医局に所属し大学で研修をするというのが一般的だと思います。私も入局や大学院への入学については一つの選択肢として常々考えているのですが、今のところ入局はせず市中病院で研修を続けています。当院は現在、専門医4名と非常勤医1名、後期研修医1名という体制で業務にあたっており、比較的人手があり経験のある医師が揃っているため、指導体制が整っており、また後期研修医の希望が通りやすい環境にもあります。脳腫瘍と骨腫瘍は少ないですが、それ以外の領域については一通り経験でき、解剖についても日中であれば後期研修医が優先的に執刀できます。若手が多いところでは症例の奪い合いが起こることや、特定の領域を学びたい者がいればそちらが優先され、自身が経験できる症例が限定される可能性があると思います。こういった点からは病理専門医を取得する上で大学よりも有利な環境にあると考えます。また出張や派遣がほとんどないため移動に時間を取られることなく、腰を落ち着けて一つ一つの症例を検討することができることも良い点ではないでしょうか。

もちろん大学での研修や研究でしか得られないことがあり、特に研究によって一つの物事を深く追求するという経験は病理医として非常に大切なことだと感じていますし、将来的には学位を取得したいと考えています。しかし研究する内容は将来の専門分野とも少なからず関係するものと思いますが、私自身まだ特定の領域に興味を絞ることができていません。まずは市中病院で診断病理を学び、病理専門医の取得を目指しながら自分の興味のある分野を絞っていきたくと考えています。また研究をしても病理診断業務には少なからず関わっていくことになると思いますが、その点でも病理診断の能力を先に磨いておくことは利点があると考えます。学位取得は専門医取得後でも遅くはないと思います。市中病院で研修を行い専門医取得後に学位を取得するというのも選択肢の一つではないでしょうか。

女性医師と学位、そしてワークライフバランス

福島県立医科大学附属病院病理診断科専攻医 若松 早穂
女性医師にとって、学位を取得するかどうかは非常に悩ましい問題の一つであります。

私は3月末現在、大学医局に在籍していますが、外科医である夫の都合で県外に転居するという事情もあり、この4月から市中病院に異動します。学位はまだ取得しておりませんが、今後どこかのタイミングで学位取得を目指すことを考えています。学位を取得するという事は、一つの称号というだけでなく、学位を得るまでの研究の中で学ぶことが今後の病理診断を主とする臨床の場面で必ず生きてくると考えています。「学位は足の裏の米粒」とも言われますが、専門医制度が固定化されてきた現在、学位はあらためて必要とされてきていると感じます。私は病理医になってまだ4年で、専門医受験はこれからです。専門医取得後に学位を目指すか、それとも専門医取得前に大学院に入学するのか、これも悩むところで未だ答えはでていません。

また、私は一児の母でもあります。育児との両立は仕事を続ける上でも、さらに大学院での研究を始める上でも非常に重要な課題です。博士号という結果も重要ですが、研究や研究をするために時間を作ったりする過程(やりくりする能力)も重要だと考えています。

昨今ワークライフバランスについてあらゆる媒体や機関において論じられておりますが、医師においても非常に重要な問題となっております。ワークライフバランスの重要性を実感するのは女性医師が多く、そしてその中でも育児中の比較的若い世代が中心となるかと思えます。両親やベビーシッターなどの手厚いサポートがある場合を除けば、勤務時間の制限や欠勤、あるいは休日当番ができない等、本人の大変さはさておき所属する職場に負担をかけてしまうこととなります。本人としても時間外解剖にはいれないと、専門医受験の規定剖検件数に達するまでに多くの年数を要してしまいます。子供の預かり先があったとしても、子供と一緒に過ごせる時間があまりにも少ないというのも、これまた困ったことです。仕事と育児、両者がバランスよく成り立つような環境の整備は徐々になされているところであり、近い将来には女性医師が躊躇することなく結婚や育児をできる社会になることを期待しています。

とはいえ、私自身の現在であるところの母親としての人生は素晴らしく、幸せな日々でもあり、このタイミングで子供を授かったことに後悔することは全くありません。

病理医(研究者)・母親・妻という肩書きの多い贅沢な人生ですが、そのうちどれかを諦めることがないようにしたいと思っています。

大学での後期研修と博士号取得について

弘前大学大学院病理生命科学講座 平井 秀明

私は、弘前大学医学部医学科を卒業後、同大学で2年間の初期臨床研修を行いました。現在は、弘前大学大学院医学研究科病理生命科学講座および医学部附属病院病理部で大学

院生兼後期研修医2年目(平成26年度)として研究・診断に従事しています。

学生時代から病理生命科学講座の鬼島宏先生に大変お世話になり、教室に出入りさせていただいており、自然と病理に興味を持つようになりました。臨床のほぼあらゆる科と関わりがある守備範囲の広さに魅力を感じていました。初期研修医になってからは、最終診断を担う病理が患者様の治療方針の決定に非常に重要な役割を担っていることを実感し、病理を専攻することに決めました。

研修先に母校である弘前大学を選んだ理由は、

1. 学生時代からお世話になっていた鬼島宏先生の下で病理学を学びたかったこと
2. 弘前大学には研修医2年目から大学院に入学できる制度があり、博士号を通常より1年早く取得できること
3. 青森県内では常勤病理医が2人以上在籍している市中病院がなく、大学病院に病理指導医が集中していたこと
4. 青森県内で働いている病理医のほとんどが、大学病院での研修を経験していたこと

の4つでした。
博士号に関して大学院入学前は、周りの先輩方の多くが取得しており、おそらく必要なものだろうという程度の認識でした。将来は、迅速で正確な病理診断ができる医師になりたいと考えていたため、博士号取得の意義について多少の疑問を感じたこともありましたが、先輩方に「学位を取得するには物事の論理性を学び、その論理の妥当性を検証する作業を行う必要がある。それは病理診断医として必要な科学的思考法を鍛えることに繋がる。病理医として独り善がりの診断をしないためには、この科学的思考法を養うことが重要であり、博士号取得は必要なことである。」とアドバイスをいただき、大学院に入学することを決意しました。

現在は、日常の診断業務と併行して博士号取得のための研究を少しずつ遂行しています。弘前大学の病理分野には各領域の専門家がおられ、診断および研究をするにはとても恵まれた環境であると感じています。上記の科学的思考法を日常業務に活かすにはまだまだ時間が必要ですが、これからも病理診断と研究(博士号取得)を両立しながら日々精進してゆきます。

「診断業務」とその先の「学位」

都立駒込病院病理科 加藤 生真

私は一般病院で病理診断の修業を始め、その後一般病院での診断業務を継続しながら研究を始めた身です。

私が病理の道に進むと決めた時からの一貫した目標は「一人前の自立した病理医になる」ことでした。臨床研修修了当初、それを「責任をもって自分で病理診断ができる」という形で実現しようと考えたので、病理診断に特化した一般病院で修業することにしました。当時、「病理学的研究」と聞いても具体的なイメージが全く湧かなかったことも、「まず診断能力」と考えた一因でした。

それから5年後、無事に病理専門医を取得することができ、目

標を実現するにあたっての新たな段階に入りました。専門医取得までの5年間に病理診断に取り組んだところ、当初思っていたよりも典型例(成書を読めば対処できる例)が決して多くはないことに気づかされました。診断の難しい症例を突き詰めていくものの、最終的な判断に迷うことも稀ならずあり、最新の論文を検索しては、なんとか落としどころを探るという経験を多くしました。責任をもって病理診断を下すことの難しさを現場で実感するにつけ、何か一つでも病理診断に役立つ知見を増やせないだろうかと思い、研究(臨床病理学的研究)への意識が芽生えたように思います。専門医取得前後から、特定臓器(私の場合は骨軟部と皮膚)では臨床科とのカンファレンスある程度任せられるようになったことも、問題意識をもつ良いきっかけになったと思います。

症例数は豊富な施設でしたし、研究に関して熱心な指導医の先生がいたこと、研究成果を母校(横浜市大)の学位とリンクさせる了解が得られたこともあり、勤務先を変えることなく研究を始めることができました。病理診断を始めた当初は興味を感じなかった「学位」ですが、現在は研究に取り組んだ証として必要な要件であると考えています。病理医を志した当初からは「一人前の自立した病理医」のイメージは若干変わりましたが、それは自分が成長して視野が広がったためと信じています。

新年度からは母校に戻り、診断と研究を両立すべく引き続き活動していく予定です。自立して研究を進められるまでには越えるべきハードルは多いですが、病理診断医という自分の芯を見失わずに、今後も精進を重ねていきたいと思っています。

病理診断業務の延長線上に「学位取得」を見据えることは、決して不自然なことではないと思います。診断業務で多忙な人が多いと思いますが、もう一步「学位取得」へ踏み出す際の参考になれば幸いです。

病理と学位

神戸大学医学部附属病院病理診断科 森永 友紀子

日本では、博士号は「足の裏の米粒」、すなわち、取らないと気になるけど取っても食えない、というような言い方をされることがある。もちろん、病態の解明や診断・治療法の確立に向けて日々を研究に捧げておられる先生方は素晴らしいと感じるし、それらが医学の進歩や生命科学の発展にとって必要不可欠であることは疑いの余地がない。博士号は、研究者としてとりあえずは一人前に活動することができるということの証明であるから、大学などの教育研究職に就く際には必須の資格だろう。しかし、臨床医を志す者にとってはどうか。

2004年に新臨床研修制度が始まってから、以前のように出身大学の医局に入局し、時期が来れば大学院に進学して博士号を取得するといったコースは、もはや定番とは言えなくなっている。私自身は卒業早い時期から病理診断学に興味を持ち、初期研修修了後すぐに出身大学でもある神戸大学の病理診断科の門を叩いた。この時に基礎の病理学講座ではなく病院の病理診断科を選んだのは、患者さんと直接話す機会はなくとも、診断や治療方針の決定に関わる医療チームの一員として臨床との関わりを持ち続けたいと考えたからである。この考えには、

やはり初期臨床研修制度により実際に臨床の現場に触れた経験が大きく影響していたように思う。その後、大学病院や市中病院で診断病理の研修を積み、昨年無事に病理専門医資格を取得し、臨床病理医としての第一歩を踏み出した。ここで今後のキャリアパスを考えるにあたり、学位を取るべきかどうかという問題にぶつかることとなった。

病理は、他の臨床科に比べると基礎研究的な要素の強い科だろう。病理学は病気の原因からその転帰まですべての過程を対象としており、全身の病的変化の本質を解明することを目的とする学問である。疾患の本態を明らかにするための基礎的研究が病理学の中で大きなウェイトを占めているのも当然である。また、近年の診断・治療技術の進歩により分子学的・遺伝学的情報が重要な位置を占める疾患も多く、日常の診断業務において基礎的素養の必要性を痛感することも少なくない。同時に、日々の業務に追われる中で、自分の興味のある分野について腰を据えて勉強したいという気持ちが湧き上がってくることもある。

病理に限らず、医師としてのある時期を研究に費やすことは、研究者を目指す者以外にとっても意味のあることだと思う。医学は日々進歩しており、臨床に携わる医師は最新の知見について情報を集め、学習し続ける必要がある。臨床現場で生じる疑問や興味について、課題の発見や解決方法の提案など、論理的で建設的な思考法を身につけるには基礎研究の経験はプラスとなるだろう。大学や研究所での勤務を求めない限り、博士号は必須のものとはいえない。しかし、病態の解明という病理学の醍醐味を味わうとともに、臨床病理医としてふさわしい知識や学習姿勢を身につけるという面で、博士号取得を目指して基礎研究に打ち込む期間があってもいいと今は考えている。

専門医取得後に学位取得を目指す理由

信州大学医学部附属病院臨床検査部 浅香 志穂
病理医に学位が必要かと問われると、必ずしも必要ではないでしょう。特に診断病理を主とする病理医にとっては、他の臨床科と同様に専門医を取得することの方が重要視されています。ここでは私が専門医取得後になぜ学位取得を目指したかを、今後の進路を検討している先生方の参考になればと思い、書かせていただきます。

私は大学病院の医局に入局し、後期研修のうち3年間を大学病院で、1年間を市中病院で研修を行った後専門医を取得しました。もともと病理医になった動機が患者さんの診療に携わりたいという思いからだったので、後期研修4年間はほぼ病理診断のみを行ってきました。幸いなことに、私の所属する信州大学病院臨床検査部では、外科病理部門と血液検査や遺伝子検査などを含む臨床検査部門とが同じ部内にあるため、血液系腫瘍や軟部腫瘍などの診断に必要な遺伝子検査や、骨髄検査での血液像の見方なども、日常診療の中で学ぶことができました。市中病院での研修では、common diseaseの病理診断を多数経験させていただき、また臨床医とのコミュニケーションの重要性も学ぶことができました。振り返って、充実した後期研修

をさせていただいたと感じております。

診断病理の世界では、ある一つの疾患や分野を深く掘り下げて探求するというよりは、幅広い知識と経験に基づき、多数の鑑別診断を挙げ、臨床経過に即した適切な診断をお返しすることが望まれます。年数を重ねるごとに臨床医との信頼関係が構築され、未熟な自分でも頼りにしていただけることに、診断病理医としてのやりがいを感じていました。しかし、病理が扱う疾患は非常に多岐にわたり、近年では診断に分子生物学的な根拠が必要になる場面も増え、一人の病理医で全ての臓器、全ての診断を十分満足できる水準で行うことはどうも不可能です。病理医同士のディスカッションや時に専門家へのコンサルテーションを行うことは不可欠で、このような現状に直面して、自分も他の病理医に頼りにされる専門分野を持ちたいと強く願うようになりました。その手段として私は学位取得を目指すことを選択しました。現在は病理診断の業務を行いながら、社会人大学院生として研究生活を送っています。

実際に大学院に入学して1年が経過しました。日常業務と研究との両立は容易でなく、思うように進まないことは多いですが、症例を系統立てて集積し検討する機会は、たとえそれがごく限られた領域であっても、日常診療に大いに役立つことばかりです。免疫組織化学や分子生物学的手法を用いた検討も、実際に自分の手を動かすことで疾患への理解が深まります。専門分野を持つものにも必ずしも学位は必要ではないと考えますが、意志が弱い怠け者の私にとっては、学位取得を目指して大学院に入学することで、目標を明確にし、周囲の協力が得やすい環境に身を置けたことが良かったと感じています。

病理医と学位

山陰労災病院 山口 隆廣

初めまして、山陰労災病院初期臨床研修医の山口隆廣と申します。2014年4月より岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病理学(免疫病理/第一病理)の松川先生のご指導のもとで病理医、大学院生として新しいスタートを切ります。今回、学位取得について病理を志す研修医が考えていること、という主題で貴重な頁をいただきましたこと、まずは御礼申し上げます。

私が研究に興味をもったきっかけは、学生時代のウイルス学の授業でした。ウイルスは真核生物よりはるかにゲノムサイズが小さいものの、宿主との相互作用により極めて複雑な動態を示します。特に、HIVはその感染戦略の巧みさに加え、真核生物の100万倍ともいわれる速度で変異する能力を持ち、個体内でも容易に変異を繰り返して、免疫感受性、薬剤感受性、細胞指向性を大きく変化させています。わずかな時間で変異を繰り返し、様々な選択圧から逃避して、単一のウイルスとしてではなく、ウイルスの群れとして増殖する様は、全体として見ると生命の凄みを感じさせるものがあります。また、HIVの属するレトロウイルス科はヒトを含む真核生物のゲノムに含まれるレトロトランスポゾンとの共通点が多く、遠い昔に細胞から生まれ、他の細胞に感染、増殖する能力を持った生命体であることが示唆されています。レトロトランスポゾンおよび内在性レトロウイルスは、哺

乳類の胎盤形成などで直接的な進化の原動力になっただけでなく、相同組換え、遺伝子発現の調節などで生物の進化と深く関わっており、進化生物学の面でも大変興味深い面があります。その他、エピジェネティクス、ジーンサイレンシングとの関わりなど、ウイルスと宿主の相互作用について興味の尽きることはありません。

医師として研究に携わるメリットは臨床との関わりにあると思います。臨床は少し掘り下げてみればわからないことばかりです。臨床から刺激を受け、それを研究に結びつけ、患者さんにフィードバックができるような成果に昇華させることができれば、医師として研究者としてこの上ない幸せです。病理学は全身の病気による変化をミクロのレベルで捉えることのできる唯一の診療科であり、最近では免疫染色に加え、ISH法で遺伝子の発現した場所まで捉えられるようになってきました。人体の病理標本から得られるこれらの情報が研究でも大きな武器になるのはもちろんですが、診断業務の面白さ、医療の中での病理診断の重要性、どれをとってもやりがいがあり、初期研修後の進路に悩んでいた私にとって病理学と出会えたことは幸運でした。

学位をとることは研究者としてスタートラインに立つことであり、それまでに実験の立案、進め方など基礎的なところから勉強しておく必要があります。まずは、病理医として臨床を学ぶこと、そして研究者として基礎的な事項を修めること、この二つを当面の目標にして頑張っていきたいと思います。未熟者ではありますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

病理医と学位

飯塚病院病理科 伏見 文良

私は社会人経験者で年齢的には若くはありませんが、若いときの気持ちを思いだしてこの原稿を書いています。

化学系の修士課程を卒業し、総合化学メーカーに就職しました。そこで学んだことは、自分のオリジナルな技術、考えを製品として形にすることの素晴らしさです。企業の場合、特許が重視されますが、私の場合幸いにも、技術の根底となるオリジナルな考えを論文化し、学位まで取得することができました。従って、学位取得と日常業務とは、直結とまではいきませんが、ある程度関連していました。なお、企業での学位取得は、昇進等の実利的な意義は、ほぼありません。奨励はしてくれませんが、自己満足、自己啓発といった範疇です。

時が流れ、医師となり、2年間の臨床研修後に病理医を志しました。幸いにも無事に病理専門医を取得することができました。現在、市中病院で学位(医学)取得を目指しています。

多忙な状況で、現在の私にとって学位取得は容易なことではありません。研究テーマは、大学で専門研修を開始した際に与えられたもので、日常診断とはややかけ離れたテーマです。こうしたことも、学位取得がなかなか進まない大きな要因となっています。ただ、自分にこんな言い訳ばかりして、情けなくなってくる時があります。診断だけに追まられるだけではなく、忙しい中でも自分なりの研究テーマを追求することは、病理医のモチベーション向上に不可欠と思っています。しかし、体が気持ち

ちについて行かない、もどかしさがあります。若かったときの自分だったら、既に学位を取得していたように思えてきます。

私にとって学位は大きな目標ですが、学位は研究能力の証明であり、通過点にすぎないとも思います。病理専門医を取得できる実力がつき、診断がある程度できるようになると、日常診断でたくさん問題が明らかになってくると思います。学位を取得し、研究マインドをもった病理医であれば、たくさん研究テーマを見つけ出すことができるはずで、日常診断に直結した研究を行っていくことこそが、市中病理医の強みであると信じます。そして自らの専門性を高めるのにも必要だと思います。

企業の研究者であったときのモットーがあります。「問題意識のないところに発見はない。発見のないところに進歩はない」。今や忘れかけていました。常に問題意識を持ち、顕微鏡を通じて、多くの発見、感動を体験し、少しでも生命のミステリーを読み解くことができるようになりたい。現実には厳しいが、学位はただの通過点でありたいというのが、私の理想であり、本来あるべき姿だと思います。

==私の趣味=====

音楽を奏でる側に回ってみたい

帯広厚生病院病理診断科 計良 淑子

ヴィオラ。Viola。弦楽器です。ヴァイオリンやチェロ、コントラバスに比べて、断然低い知名度。楽器を説明するときのやりとりは哀しくなります。「ヴァイオリンのちょっと大きいやつ」「いや、チェロよりは小さくて…」。最近では、「皇太子さまが弾かれる弦楽器」と説明に加えるのですが、思い浮かびましたでしょうか。

少し専門的な話をしますと、ヴィオラに張られた4本の弦はC・G・D・A線の組み合わせで、ヴァイオリンG・D・A・E線と比較すると、ヴィオラはC線を使うことでより低音を出すことができます。ちなみにヴィオラとチェロの弦の構成は同じです。

譜面はピアノ譜や合唱譜で見慣れたト音へ音ではなく、ハ音で記されます。ト音記号のドは、ハ音記号では一オクターブ下のレになります。オクターブはさておき、この一音のずれが祟り、ト音を知る初心者には譜読み混乱必至です。取りあえずカタカナで音階(ドレミ)をふり、一年くらいで自然にハ音読みを体得します。しかし、アマチュア中級者になった頃に管弦楽曲に手を出すと、高い音域に突如ト音記号が出現し、今度はト音音符がとっさに読めずに苦勞することになります(経験談)。

私とヴィオラの出会いは、札幌医科大学室内楽合奏団です。主旋律を受け持ち高い技術が必要なヴァイオリン、主役も脇役も自在にこなすが持ち運びに苦勞することもあるであろうチェロと天秤にかけた末の選択でした。近似した見た目・音域にも関わらずヴァイオリンにはない味のある太い音色は心地良く、また、主に伴奏を受け持つ立ち位置も私の性に合っていました。地味で結構、ヴィオラ大好きです！アマチュアヴィオリストは少なく、演奏機会に不自由することはありません。

しかしながら、大人から始める弦楽器は習得に膨大な時間がかかります。名人芸などと注目が集まりがちなのは、弦を押さえて音程を作り、華やかにヴィブラートをかける左手ですが、より難しいのは弓を動かす右手の方だと思います。正しい弓の運

び方を体得するだけでも年がかりですし、音色を作るためには弓のどこ部分を、どのくらいの毛量を使って(弓には馬の尾の毛が張られている)、弦のどの辺りにあてて、どのくらい速さで弓を動かすかを考えなくてはなりません。学生時代毎日数時間練習してそれなりに上達しましたが、今でも右手側により課題が多いです。

思い入れのある曲は、北オケ(北日本医科学生オーケストラフェスティバル。東医体のオケ版のようなものです)でパートリーダーを担ったストラヴィンスキー「火の鳥(全曲版)」です。ヴィオラソロが多く、とんでもなく拍がとりづらく、今も曲を聴くたびに当時の気持ちが蘇ります。

大して上手くもないアマチュア音楽を続けられる理由は、合奏の魅力に尽きます。ヴィオラの役回りが多いのは、リズムの刻みや内声で主旋律を支えることですが、この楽しさは一人では味わえません。演奏中は、譜面とパートリーダーと指揮者を見ると同時に、他パートとのリズムやメロディの受け渡し、主旋律の流れを意識して聴いています。演奏者間のちょっとした表情や目線の動きによるコミュニケーションも楽しいものです。

ここ数年は育児に追われて音楽を楽しむ余裕が持てずにはいきましたが、2013年、久々に日本病理医フィルハーモニーJapan Pathologists Philharmonic (JPP)でヴィオラを演奏する機会を得ました。病理医の他、病理に縁のある人々によるオーケストラです。歴史は浅いのですが、学会期間中に催す無料演奏会は2014年第103回学術集会で第3回を数えるまでになりました。学会参加の折には、演奏会に足を運んで下さると大変うれしく思います。

== 支部報告 ==
--北海道支部--

北海道支部編集委員 深澤 雄一郎

学術活動報告

第163回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が外丸詩野先生(北海道大学大学院医学研究科分子病理)のお世話で2014年1月25日(土)、北海道大学医学部学友会館フラテ大研修室において行われ61名の参加がありました。検討された症例は以下のとおりです。症例検討の後、中谷先生の熱のこもった講演があり、懇親会でも先生を中心に大いに盛り上がりました。

13-24/粒状影を呈した多発肺病変の一例/出倉康裕1、伊藤真理子1、松田玲奈1、八代真一1、村上洋平1、鹿野哲1、佐々木豊1、長谷川匡2、久岡正典3(1 勤医協中央病院病理診断科、2札幌医科大学附属病院病理部、3産業医科大学医学部第1病理学)/70歳代 女性/Multiple meningothelial-like nodules

13-25/診断に難渋した若年女性の肺病変/岩崎沙理1 松野吉宏2 岡本賢三3 藤澤孝志1 鈴木昭1(1 KKR札幌医療センター病理診断科、2 北海道大学病院病理部、3 北海道中央労災病院 病理診断科)/30歳代 女性/Organizing pneumonia/ MALTリンパ腫を疑ったが、ISHやflowcytometryにてκ/λ 比に偏奇は目立たず、southern blottingやPCRにてIgH再構成は検出されず、MALT1遺伝子分断はFISHで検出されず、G-bandingでもMALTリンパ腫に特徴的な染色体異常は検出されなかった。

13-26/中年女性に発生した多発性肺病変/及川賢輔1、松田佳也1、熊井琢美1、青木直子1、三代川斉之2、木村昭治3、小林博也1(1 旭川医科大学 病理学講座免疫病理分野、2 旭川医科大学病院 病理部、3 旭川医科大学 看護学講座)/40歳代 女性/Multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia

13-27/中年女性にみられた孤立性肺腫瘍/及川賢輔1、松田佳也1、熊井琢美1、青木直子1、佐藤啓介2、櫻井宏治2、木村昭治3、小林博也1(1 旭川医科大学 病理学講座免疫病理分野、2 JA北海道厚生連 旭川厚生病院病理部、3 旭川医科大学 看護学講座)/40歳代 女性/Pulmonary histiocytic sarcoma 特別講演

「肺外科病理診断:最近のトピックスから」
千葉大学大学院医学研究院診断病理学 教授
同医学部附属病院病理部 部長
中谷行雄 先生

第164回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が外丸詩野先生(北海道大学大学院医学研究科分子病理)のお世話で3月15日(土)、北海道大学医学部学友会館フラテ大研修室において行われました。検討された症例は以下の通りです。症例検討の後に北海道病理医会総会が行われました。

13-28/イレウスを主訴として発症した回盲部腫瘍/立野正敏(釧路日赤病院病理診断科)、河野通大(同内科)、青木直子(旭川医科大学病理学講座)、柳内充(市立札幌病院病理診断科)/70歳代 男性/Composite lymphoma (follicular lymphoma and B-cell lymphoma, unclassifiable), with features intermediate between diffuse large B-cell lymphoma and Burkitt lymphoma). Triple hit lymphoma /FISH解析でBCL2, C-MYC, Bcl6の3遺伝子変異が証明できた。

13-29/まれな乳腺腫瘍の一例/及川賢輔1、松田佳也1、熊井琢美1、青木直子1、佐藤啓介2、櫻井宏治2、木村昭治3、小林博也1(1 旭川医科大学病理学講座免疫病理分野、2 JA北海道厚生連旭川厚生病院病理部、3 旭川医科大学看護学講座)/60歳代 女性/Primary breast fibrosarcoma metastatic to the lung

13-30/小児肝腫瘍の一例/伊丹弘恵、石井保志、秋元真祐子、柳内充、辻隆裕、深澤雄一郎(市立札幌病院 病理診断科)/2歳 男児/Mesenchymal hamartoma, solid variant / Focal nodular hyperplasia(FNH)ではないかとの指摘があり、引き続き検討することとなった。

平成25年度 北海道病理医会総会

1. 代表者会議メンバーの決定について

池田健(函館五稜郭病院)今村正克(札幌診断病理学センター)大内知之(恵佑会札幌病院)鹿野哲(勤医協中央病院)菊地慶介(帯広厚生病院)小林博也(旭川医科大学大学院免疫病理)今信一郎(市立室蘭総合病院)近藤信夫(ジェネティックラボ病理解析センター)佐藤昇志(札幌医科大学医学部第一病理)澤田典均(札幌医科大学医学部第二病理)篠原敏也(手稲溪仁会病院)鈴木昭(KKR札幌医療センター)高桑康成(NTT東日本札幌病院)高橋秀史(北海道子ども総合医療・療育センター)高橋達郎(釧路労災病院)高橋利幸(北海道消化器科病院)立野正敏(釧路赤十字病院)田中伸哉(北海道大学大学院腫瘍病理)外丸詩野(北海道大学大学院分子病理)西川祐司(旭川医科大学大学院腫瘍病理)長谷川匡(札幌医科大学附属病院病理部)深澤雄一郎(市立札幌病院)松野吉宏(北海道大学病院病理部)三代川斉之(旭川医科大学病院病理部)村岡俊二(札幌厚生病院)山城勝重(北海道がんセンター) 26名

2. 標本交見会について

担当幹事:札幌厚生病院臨床病理科 村岡俊二 先生
会場:札幌厚生病院新棟・会議室
協力:北海道がんセンター 山城勝重 先生
(バーチャルスライド担当)

症例検討(年6回)特別講演(年1回)

3. 共催事業等

胃癌HER2病理判定プログラム(主催:日本病理学会北海道支部、共催:北海道病理医会、中外製薬)7月

細胞診講習会(共催:北海道臨床細胞診学会、北海道病理医会)11月

Lymphoma Clinico-Pathology Conference (LCPC)7月,2月

—東北支部—

東北支部編集員 増田 友之

第78回日本病理学会東北支部学術集会および幹事会・総会
標記集会在平成26年2月15日に仙台市良陵会館会議室で開催され、下記の事項が報告・協議された。

報告事項:

1. 第78回東北支部学術集会の概要について(八木橋支部長)
2. 理事会からの報告(八木橋支部長)
3. 各委員会からの報告:総務・財務(渡辺担当幹事)、学術(山川担当幹事)、企画・広報(増田担当幹事)
4. 第7回「病理夏の学校」について(渡辺先生)
5. 東北支部の活動について(夏の学校他)

協議事項:

1. 第77回学術集会決算について(本間前集会長)
2. 第79回東北支部学術集会について(武田次期集会長)
3. 第80回東北支部学術集会について

お知らせ

1) 第79回日本病理学会東北支部学術集会が会の要領で開催されます。ふるってご応募・ご参集の程、お願い申し上げます。

期日:平成26年7月19日(土)-20日(日)

会場:岩手県歯科医師会館

(盛岡市盛岡駅西通2-5-25(TEL:019-621-8020))

会長:武田泰典教授

(岩手医科大学病理学講座病態解析学分野)

託児所の開設も予定しています。

2) 第13回テレパソロジー・バーチャルマイクロスコープ研究会

期日:平成26年8月28日(木)-30日(土)

会場:青森県観光物産館 アスパム(青森県青森市)

会長:高松輝賢殿(株式会社クラーク)

3) 第19回日本遠隔医療学会学術集会

期日:平成27年10月9日(金)-10日(土)

会場:戦災復興記念館(宮城県仙台市)

会長:渡辺みか准教授(東北大学病院病理部)

4) 第105回日本病理学会総会

期日:平成28年5月12日(木)-14日(土)

会場:仙台国際センター仙台市新展示施設(宮城県仙台市)

会長:笹野公伸教授

(東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野)

—関東支部—

第62回日本病理学会関東支部学術集会開催報告

東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 中村 直哉

2014年3月15日、東海大学代々木キャンパス4号館5階講堂において開催いたしました。

「非腫瘍性リンパ増殖性疾患の病理」を企画し特別講演を2題と、一般講演は血液疾患3題を含む5題を発表いただきました。当日は晴天で、192名のご参加を戴き、活発な議論が行われました。(以下敬称略)

一般演題 1

1) 座長:森 一郎(国際医療福祉大学三田病院病理部)
動脈瘤のあり方を成した頰部血管病変の1例
入江太朗(昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門)

2) 座長:齋藤 剛(順天堂大学医学部人体病理病態学)
診断に苦慮した仙骨原発骨腫瘍疑いの一例
野口 映(神奈川県立がんセンター病理診断科)

3) 座長:比島恒和(都立駒込病院病理科)
Myeloid sarcomaが疑われた縦隔腫瘍の1例
高柳奈津子(埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科)

特別講演 1

座長:田尻琢磨(東海大学医学部付属八王子病院病理診断科)
リンパ腫病理からみたIgG4関連疾患

佐藤康晴(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病理学分野)

一般演題 2

4) 座長:菊地智樹(東海大学医学部基盤診療学系病理診断学)
胚中心性進展性異形成progressive transformation of germinal centers (PTGC)
の1例 江中牧子(横浜市立大学附属病院 病理部)

5) 座長:太田 聡(千葉大学医学部附属病院病理部)
TAFRO症候群の2例
平岩真一郎(東海大学医学部付属八王子病院病理診断科)

特別講演 2

座長:中村直哉(東海大学医学部基盤診療学系病理診断学)
Castleman病の病理診断

小島 勝(獨協医科大学病理・形態)

第37回茨城病院病理医の会

期日:2014年2月22日(土)

会場:東京医科大学茨城医療センター

(茨城県稲敷郡阿見町)

世話人:森下由紀雄(東京医科大学茨城医療センター)

参加人数:27人

<症例検討>

1) 特異な画像所見を呈した脾腫瘍の症例
荒木一寿、他(筑波大学病理)

2) 切除肝全体に及ぶ腫瘍の一例
中野雅之、他(筑波大学附属病院病理部)

3) 陰茎腫瘍の一例
矢野陽子、他(東京医科大学茨城医療センター病理診断部)

4) 視力低下で発症後急激な骨髄抑制・呼吸不全をきたした1症例
堀真佐男(水戸赤十字病院病理診断科)

5) 腫瘍発生過程が推測できるような胃のyolk sac tumor様腫瘍
大谷明夫(水戸医療センター病理診断科)

<追加演題>

茨城県臨床検査技師会による病理組織標本精度管理調査の現状と課題について 古屋周一郎(筑波大学附属病院病理部)

<特別講演>

組織形態観察に基づいた卵巣明細胞腺癌の病理学的検討
山本宗平先生(鹿児島市立病院臨床病理科)

第66回埼玉病理医の会

期日:平成26年2月28日(金)

会場:国立病院機構 東埼玉病院

世話人:芳賀 孝之 参加人数:18人

症例検討:

出題者所属・氏名/年齢・性/臓器・臨床診断/病理診断・検討内容など

1) 自治医大さいたま医療センター・野首 光弘/80歳代・男性/肺癌/肺腺癌再発

2) 埼玉医大国際医療センター・永田 敬/38歳・女性/両側卵巣腫瘍/
Strumal carcinoid

3) 国立病院機構 東埼玉病院・芳賀 孝之/33歳・女性/肺膿瘍/
Congenital cystic adenomatoid malformation

4) 防衛医大・亀田 光二/63歳・女性/肺癌/転移性肺腫瘍(直腸癌の肺転移)

中部支部

中部支部編集委員 森谷 鈴子

第17回中部支部スライドセミナーが下記の通り開催されました。

日時:2014年3月15日(土) 9:00~16:45

会場:三重大学医学部臨床第二講義室

世話人:三重大学医学部腫瘍病理学/附属病院病理部

今井裕先生

テーマ:脳腫瘍病理

参加人数:(三重大に問い合わせ中)

【講演】

講演1 脳神経外科医として病理医に配慮していること、望むこと

三重大学脳神経外科 松原年先生

座長:鈴鹿中央総合病院病理診断科 村田哲也先生

講演2 Gliomaの病理

神戸大学・兵庫県立がんセンター病理 廣瀬隆則先生

座長:三重大学腫瘍病理学 白石泰三先生

講演3 髄膜腫及び鑑別を要する類似疾患の病理診断について

藤田保健衛生大学病理 安倍雅人先生

座長:三重大学がんセンター 福留 寿生先生

【症例検討】

S2014-1 金沢大学附属病院病理部 池田博子 10才女性 右頭頂葉

Rhabdomyosarcoma of CNS

Rhabdoid cellが出現しうる脳腫瘍が全て除外され、非常に稀な中枢神経原発の腫瘍と考えられた。類似症例の報告例も紹介され、末梢に発生する小児のrhabdomyosarcomaとは異なる疾患概念である可能性もあるとのコメントも出た。

S2014-2 藤田保健衛生大学附属病院病理部 岡部麻子 30代女性 左前頭葉

Ganglioglioma, Grade I.

Ganglion cellの成分が非常に明瞭に認められた。本例のglioma成分はdysembryoplastic neuroepithelial tumor (DNT) や oligodendroglioma, pleomorphic xanthoastrocytoma (PXA), pilocytic astrocytoma等多彩な成分への類似性を示し、診断を困難にする一因となった。

S2014-3 信州大学医学部附属病院 一萬田正二郎 29才男性 左視床

演者の診断:pilomyxoid astrocytoma

コメンテーターの診断:Radiation-induced high-grade astrocytoma

25年前に小脳髄芽腫にて放射線治療の既往があり、今回の腫瘍は治療に抵抗性で最終的には死亡された。組織所見は pilomyxoid astrocytomaに類似しているが、年齢、画像所見、臨床経過に加えてmitosisも多く、high-gradeなastrocytomaがより考えられた。

S2014-4 慈恵会相澤病院 樋口佳代子 20才男性 小脳虫部付近

Rosette-forming glioneuronal tumor of the fourth ventricle, Grade I.

Rosette形成が明瞭に確認できる典型例。予後良好で境界明瞭な腫瘍であるが、実際には周囲に向かって浸潤性の発育を示すという特徴がよく現れていた。

S2014-5 金沢医科大学臨床病理学 中田聡子 37才男性 頭蓋底

Hemangiopericytoma (HPC)/cellular solitary fibrous tumor (SFT)

再発を繰り返し、全身多発転移を来して全経過9年にて死亡された。組織像がmeningiomaとも類似していたが、免疫染色にてSTAT-6陽性、RT-PCR法でNAB2-STAT6 fusion geneが確認された。この遺伝子異常は軟部のHPC/SFTとも共通しており、中枢神経系のHPCは軟部のSFTと同じentityであることが説明された。

S2014-6 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 34才男性 左後頭葉

Hemangiopericytoma with anaplastic features.

再発病巣においてmitosisが多く、anaplasticと言える特徴が見られた。再発病巣術後に創感染を起こしていた。HemangiopericytomaではGrade II or IIIの鑑別よりも全身転移のcontrolが大切で、定期的にPETなどで再発病巣を早期に発見し、小さいうちに切除することの重要性が臨床医からコメントされた。

【学術奨励賞授賞式】

第72回中部支部交見会(2013年12月)の学術奨励賞授賞式が行われ、下記の先生方が受賞されました。

学術奨励賞(カテゴリーA:専門医試験合格前)

小林一博先生(岐阜大学附属病院病理部)

福嶋麻由先生(浜松医科大学病理診断科)

大西一平先生(磐田市立総合病院)

学術奨励賞(カテゴリーB:専門医試験合格後3年以内)

中田聡子先生(富山市民病院/金沢医科大学臨床病理学)

学術奨励優秀発表賞

福嶋麻由先生(浜松医科大学病理診断科)

次回学術集会等案内

第73回中部支部交見会

日時:2014年7月5日(土)、6日(日)

世話人:高山赤十字病院 岡本清尚先生

中部支部「夏の学校」in 石川

日時:2014年8月9日(土)、10日(日)

会場:和倉温泉ホテル海望

世話人:金沢医科大学 清川悦子先生 湊宏先生

東海病理学会 検討症例報告

第294回

(平成25年11月16日参加者14名 於:藤田保健衛生大学)

/ 症例番号 / 病院名 / 病理医 / 年齢(歳代) / 性 / 臓器 / 臨床診断 / 病理組織学的診断

4612 / 藤田保健衛生大学 / 黒田 誠 / 30 / 女 / 外陰部 / 外陰部腫瘍 / Fibroepithelial stromal polyp

4613 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 30 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Serous cystadenoma of borderline malignancy

4614 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 50 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Mucinous cystadenoma of borderline malignancy

4615 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 40 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Mucinous cystadenoma of borderline malignancy

4616 / 藤田保健衛生大学 / 岡部 麻子 / 50 / 女 / 卵巣 / 転移性卵巣腫瘍 / Mixed adenoneuroendocrine carcinoma

4617 / 藤田保健衛生大学 / 浦野 誠 / 40 / 男 / 胸腺 / 前縦隔腫瘍 / Mature cystic teratoma predominantly pancreatic tissue

4618 / 静岡赤十字病院 / 浦野 誠 / 10 / 男 / 下顎骨 / 下顎骨腫瘍 / Desmoplastic fibroma

4619 / 大同病院 / 小島伊織 / 70 / 女 / 膝 / 膝癌 / Giant cell carcinoma, osteoclastoid type

4620 / 大同病院 / 小島伊織 / 50 / 男 / 大腸 / 大腸癌 / Metastatic pancreatic cancer

4621 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 10 / 女 / 後縦隔 / 後縦隔腫瘍 / Follicular dendritic cell tumor

第295回

(平成25年12月14日参加者16名 於:藤田保健衛生大学)

4622 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 70 / 男 / 腎 / 両側腎癌 / Metastatic thyroid papillary carcinoma

4623 / 藤田保健衛生大学 / 中川 満 / 60 / 男 / 甲状腺 / 甲状腺腫瘍 / Metastatic renal cell carcinoma

4624 / 藤田保健衛生大学 / 岡部麻子 / 0 / 男 / 皮膚 / 疥癬疑い / Scabies

4625 / 藤田保健衛生大学 / 岡部麻子 / 2 / 女 / 後腹膜 / 神経芽腫疑い / Lymphoblastic lymphoma

4626 / トヨタ記念病院 / 北川 諭 / 70 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Squamous cell carcinoma arising from mature cystic teratoma

4627 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 30 / 女 / 軟部 / 軟部腫瘍 / Synovial sarcoma

- 4628 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 70 / 女 / 軟部 / 軟部腫瘍 /
Extraskelletal myxoid chondrosarcoma
- 4629 / 飯田市立病院 / 尹 漢勝 / 40 / 女 / 子宮 / 子宮頸管ポリープ /
Invasive squamous cell carcinoma
- 4630 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 70 / 女 / 腸間膜 / 腸間膜腫瘍 /
Mesenteric panniculitis
- 4631 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 40 / 男 / 直腸 / 直腸平滑筋 /
Leiomyosarcoma
- 4632 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 40 / 男 / リンパ節 / 悪性リンパ腫疑い /
Adult T-cell lymphoma
- 4633 / 鈴鹿中央総合病院 / 村田哲也 / 70 / 女 / 結腸 / 結腸腫瘍 /
Schwannoma
- 4634 / 諏訪中央病院 / 浅野功治 / 70 / 女 / 後腹膜 / 後腹膜腫瘍 /
Clear cell adenocarcinoma
- 4635 / 諏訪中央病院 / 浅野功治 / 70 / 女 / 結腸 / 結腸癌 /
Metastatic adenocarcinoma

第296回

(平成26年1月18日参加者22名 於:藤田保健衛生大学)

- 4636 / 静岡赤十字病院 / 桐山論和 / 50 / 男 / 直腸 / 直腸腫瘍 /
Adenocarcinoma arising from serrated adenoma
- 4637 / 藤田保健衛生大学病院 / 桐山論和 / 60 / 男 / 盲腸 / 盲腸癌 /
Adenocarcinoma arising from serrated adenoma
- 4638 / 藤田保健衛生大学病院 / 桐山論和 / 40 / 女 / 肝 / 肝細胞癌 / PEComa
- 4639 / 藤田保健衛生大学病院 / 中川満 / 60 / 女 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 /
Endometrial stromal sarcoma
- 4640 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 30 / 男 / 軟部 / 皮下腫瘍 /
Nodular fasciitis
- 4641 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 10 / 男 / 軟部 / 大腿軟部腫瘍 /
Low grade fibromyxoid sarcoma
- 4642 / 名古屋記念病院 / 西尾知子 / 40 / 男 / 軟部 / 大腿軟部肉腫 /
Myofibroblastic sarcoma
- 4643 / 諏訪中央病院 / 浅野功治 / 50 / 女 / 外耳道 / 外耳道腫瘍 /
Atypical dermatofibroma
- 4644 / 大同病院 / 小島伊織 / 50 / 女 / 後腹膜 / 後腹膜腫瘍 /
Leiomyosarcoma
- 4645 / 岐阜大学病院 / 小林一博 / 70 / 女 / 耳下腺 / 頸部腫瘍 /
Mammary analogue secretory carcinoma
- 4646 / 鈴鹿中央総合病院 / 内山智子 / 30 / 男 / 脳 / 脳腫瘍 /
Anaplastic hemangiopericytoma
- 4647 / 岐阜市民病院 / 山田鉄也 / 60 / 女 / 甲状腺 / 甲状腺腫瘍 /
Subacute thyroiditis
- 4648 / 小牧市民病院 / 栗原恭子 / 40 / 女 / 肝 / 肝腫瘍 / Liver cell adenoma

近畿支部

近畿支部編集委員 伊東 恭子

近畿支部の最近の活動および今後の活動予定をお知らせいたします。

I-1. 第64回日本病理学会近畿支部学術集会在下記の内容で開催されました。

日時:平成26年2月8日(土)

場所:大阪大学

世話人:森井英一

(大阪大学医学系研究科・病理病態学教室)

テーマ:顎・口腔疾患(唾液腺を除く)

モデレーター:豊澤 悟

(大阪大学歯学研究科・口腔病理学教室)

以下にプログラムを掲載いたします(検討症例、画像等につきましては(<http://jspk.umin.jp/H24-gakujyutushu-kai/57th/program%2057th.html>)で閲覧可能です。)。なお、今回

も託児所を開設いたしました(sakaida@hirakata.kmu.ac.jp)。

症例検討

座長:原田博史 先生(生長会病理センター 府中病院)

839 上咽頭に生じた黒色病変の1例

宇佐美 悠 先生,他(大阪大学歯学部附属病院 検査部,他)

840 下顎骨腫瘍の1例

岸野万伸 先生,他(大阪大学大学院歯学研究科 口腔病理学教室,他)

座長:中塚伸一 先生(関西労災病院)

841 顎下腺腫瘍の1例

野田百合 先生,他(大阪大学医学部附属病院 病院病理部,他)

842 頸部腫瘍の1例

原田博史 先生,他(生長会病理センター 府中病院病理診断科,他)

座長:大澤政彦 先生(大阪市立大学)

843 小児の副鼻腔腫瘍の一例

奥野高裕 先生,他(大阪市立総合医療センター 病理部)

844 胸壁・リンパ節腫瘍の一例

古川敦行 先生,他(京都大学医学部附属病院 病理診断科,他)

座長:森井英一 先生(大阪大学医学系研究科)

特別講演『口腔癌組織診断基準の変遷と細胞診』

田中陽一 先生(東京歯科大学市川総合病院・臨床検査科病理室)

座長:田中昭男 先生(大阪歯科大学)、豊澤 悟先生(大阪大学歯学研究科)

【教育講演】:「顎・口腔の疾患」

1. 口腔扁平上皮癌の治療

大倉正也 先生(大阪大学大学院歯学研究科・口腔外科学第一教室)

2. 顎骨の線維性骨異形成症

豊澤 悟 先生(大阪大学大学院歯学研究科・口腔病理学教室)

3. 口腔病変から明らかとなった全身性疾患

宇佐美 悠 先生(大阪大学歯学部附属病院・検査部)

I-2. 市民公開講座が下記の内容で開催されました。

テーマ:食道癌の診断・治療・予防

2014年1月18日(土)

14:00~16:00 (13:30 開場)

会場:大阪市立総合医療センター 3階

参加費:無料(定員300名)

講演1『食道癌の早期診断・内視鏡的治療、そして予防』

生長会府中病院 病院顧問 兼府中クリニックセンター長

廣岡大司(消化器内科医)

講演2『食道癌の外科治療』

近畿大学学長 塩崎 均(消化器外科医)

講演3『食道癌の病理』

株式会社 PCL Japan 統括所長 石黒信吾(病理医)

II. 今後の学術集会の予定です。

II-1. 第65回日本病理学会近畿支部学術集会

日時:平成26年5月17日(土)

場所:兵庫県立医科大学

世話人:辻村 亨 (兵庫県立医科大学)

テーマ:中皮腫の病理

モデレーター:清水重喜(兵庫県立医科大学)

<特別講演>

岡 輝明先生(関東中央病院 臨床検査・病理科)

<診断講習会>

II-2. 第66回日本病理学会近畿支部学術集会

日時:平成26年10月11日(土)

場所:京都府立医科大学

世話人:伏木信次 (京都府立医科大学)
テーマ:消化器・膝の病理
モデレーター:柳澤昭夫、岸本光夫 (京都府立医科大学)

III. 日本病理学会近畿支部 “夏の学校”の予定です。

日時:平成26年8月9日(土)
場所:京都大学
企画:羽賀博典、南口早智子(京都大学)

-----中国四国支部-----

中国・四国支部編集委員 串田 吉生

A. 開催報告

1. 第113回学術集会

開催日:平成26年2月22日(土)
場所:愛媛大学医学部臨床講義棟2F 創立40周年記念講堂
世話人:愛媛大学大学院 医学系研究科 分子病理学講座
北澤荘平教授

一般演題17例が集まり、活発な討議が行われました。発表スライドや投票結果は<<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>>から見る事が出来ます。また、神戸大学医学部地域連携病理学分野特命教授、兵庫県立がんセンター病理診断科部長の廣瀬隆則先生による特別講演「軟部腫瘍Update」も行われました。

一般演題

演題番号/タイトル/出題者(所属)/出題者診断/最多投票診断

- S2492/胸部皮膚腫瘍/大城由美(松山赤十字病院病理診断科)/
Dermatofibrosarcoma protuberans, plaque-like type/Neurofibroma
- S2493/乳腺腫瘍/大森昌子(岡山大学病院病理診断科)/Angiosarcoma/concord
- S2494/乳腺腫瘍/中山宏文(広島鉄道病院臨床検査室)/Encapsulated papillary carcinoma with microinvasion/Solid papillary carcinoma (Endocrine DCIS)
- S2495/肺腫瘍/大野京太郎(岡山大学医歯薬学総合研究科病理学(腫瘍)/
Synovial sarcoma/concord
- S2496/肺腫瘍/高木雄三(鳥取大学医学部器官病理学)/
Salivary gland-type adenocarcinoma/concord
- S2497/肺異常陰影/石井文彩(山口大学大学院医学系研究科病理形態学)/
Wegener's granulomatosis/concord
- S2498/腎腫瘍/長瀬真実子(鳥根大学医学部器官病理学)/
AFP-producing renal cell carcinoma/concord
- S2499/腎生検/串田吉生(香川大学医学部附属病院病理診断科)/
Medullary cystic kidney disease/Interstitial nephritis
- S2500/後腹膜腫瘍/谷山大樹(呉医療センター・中国がんセンター臨床研修部)/
Angiomyolipoma/PEComa family
- S2501/傍脊椎軟部腫瘍/榊美佳(徳島大学病院病理部)/
Myoepithelial carcinoma, high grade/Chondrosarcoma
- S2502/口蓋腫瘍/大林真理子(広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔顎顔
面病理形態学)/Mucoepidermoid carcinoma/concord
- S2503/下顎骨腫瘍/近藤智之(徳島大学歯学部口腔分子病態学)/
Mucoepidermoid carcinoma/Ameloblastoma
- S2504/唾液腺腫瘍/松影昭一(市立宇和島病院臨床検査科)/
Cystadenoma/Cystadenocarcinoma
- S2505/筋生検/西村広健(川崎医科大学病理学1)/ Polymyositis/concord
- S2506/脾臓腫瘍/黒田直人(高知赤十字病院病理診断部)/
Sclerosing angiomatoid nodular transformation/inflammatory pseudotumor
- S2507/膝頭部腫瘍/武田千佳(倉敷中央病院病理検査科)/
Mixed ductal-neuroendocrine carcinoma/Neuroendocrine tumor
- S2508/炎症性腸疾患を疑われた症例/中西護(市立宇和島病院臨床検査科)/
Intestinal capillaritis/concord

B. 開催予定

1. 第114回学術集会

開催日:平成26年6月14日(土)
世話人:高知大学医学部病理部 弘井誠先生

C. 県単位の研究会などの開催報告

1. 第54回山陰病理集談会

開催日:平成26年1月25日(土)
世話人:鳥取大学医学部分子病理学分野、林一彦教授
参加人数:28名

- 729 下顎/Osteosarcoma/岡山大学病理学(免疫/第一)/板倉淳哉他
- 730 肺/Atypical carcinoid tumor/浜田医療センター病理診断科/長崎真琴
- 731 肺/Bronchiectasis/鳥取県立中央病院 病理診断科/徳安 祐輔他
- 732 乳腺/Solid papillary carcinoma/福山市民病院 病理診断科/重西邦浩他
- 733 乳腺/Malignant lymphoma, peripheral T-cell lymphoma, NOS/鳥根県立中央
病院 病理組織診断科/大沼秀行他
- 734 腎/RCC-Xp11.2 translocations/鳥取大学医学部分子病理学/桑本聡史他
- 735 リンパ節/T-cell lymphoma (AITL)/松江赤十字病院 病理部/高橋卓也
- 736 後腹膜/Ganglioneuroblastoma nodular/鳥根大学医学部病態病理学/天野知
香他
- 737 角膜/Dermoid/鳥取大学医学部附属病院病理部/堀江靖他
- 738 延髄/Wallenberg syndrome/鳥取大学医学部脳病態医学/瀧川みき他
- 739 乳腺/LCIS with marked myoepithelial proliferation arising in fibroadenoma/
鳥根県立中央病院 病理組織診断科/大沼秀行他

-----九州沖縄支部-----

九州・沖縄支部編集委員 大石 善丈

第337回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催
されました。

日時:平成26年1月25日

場所:鹿児島大学医学部 鶴陵会館大ホール

世話人:鹿児島大学大学院 人体がん病理学 米沢傑教授
鹿児島大学大学院 分子細胞病理学 谷本昭英 教授
鹿児島大学大学院 口腔病理解析学 仙波伊知郎 教授
また、スライドコンファレンス前に、がん診療連携拠点病院機
能強化事業(病理医養成事業)主催・病理学会九州沖縄支部・
若手病理医の会後援、「初心者の為の病理診断講習会 第二
回」が開催されました。

演題:「子宮頸部生検の病理診断;

細胞診とのコラボレーションII、腺系病変について」

演者:潤和会記念病院病理診断科 林透先生

発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断 /
発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名 / 討論内容
座長 山本宗平 (鹿児島市立病院)

1. 吉河康二、森山正臣 / 別府医療センター病理診断科 / 60代 / 女性 / 鼻腔
/ 鼻腔腫瘍 / Yolk sac tumor / Yolk sac tumor / Angiosarcoma /
2. 財津瑛子 / 九州大学形態機能病理 / 40 / 女性 / 右耳下腺 / 耳下腺腫瘍 /
Mammary analogue secretary carcinoma / Mammary analogue secretary
carcinoma / Acinic cell carcinoma /
座長 畑中一仁 (鹿児島大学分子細胞病理)
3. 北園育美、平木翼 / 鹿児島大学人体がん病理 / 65 / 女性 / 胸腺 / 胸腺
腫瘍 / Thymus: MALT lymphoma, Thyroid: Chronic thyroiditis / Thymus:
MALT lymphoma, Thyroid: Chronic thyroiditis / Thymus: MALT lymphoma,
Thyroid: Chronic thyroiditis /

4. 渡辺 次郎 / 公立八女総合病院 / 80代 / 女性 / 胃 / 胃腫瘍 / Adenocarcinoma with neuroendocrine differentiation / Adenocarcinoma with neuroendocrine differentiation / Adenocarcinoma with neuroendocrine differentiation /
- 座長 島尾義也(県立宮崎病院)
5. 今村健太郎 / 福岡大学筑紫病院 / 80代 / 女性 / 大腸 / 大腸病変 / Leiomyosarcoma / Leiomyosarcoma / Leiomyoma / 丹念な核所見の評価と核分裂数が重要である
6. 県立宮崎病院 / 西田 陽登 / 大分大学診断病理 / 30代 / 女性 / 横行結腸 / 横行結腸腫瘍 / Endometrioid adenocarcinoma in endometriosis of colon / Endometrioid adenocarcinoma in endometriosis of colon / Adenocarcinoma arising from endometriosis /
- 座長 佐藤勇一郎(宮崎大学構造機能病態)
7. 伏見文良 / 飯塚病院病理科 / 79 / 男性 / 腹腔内 / 腹部腫瘍 / Malignant peritoneal mesothelioma, biphasic type / Malignant peritoneal mesothelioma, biphasic type / Gastrointestinal stromal tumor (GIST) /
8. 北田昇平 / 産業医科大学2病理 / 19 / 男性 / 尿道 / 尿道腫瘍性病変 / Nephrogenic adenoma / Nephrogenic adenoma / Nephrogenic adenoma /
- 座長 山田壮亮(産業医大2病理)
9. 甲斐敬太 / 佐賀大学病院病態科学診断病理学 / 49 / 女性 / 左乳腺 / 乳腺腫瘍 / Invasive lobular carcinoma, solid type / Invasive lobular carcinoma, solid type / Invasive lobular carcinoma, solid type /
10. 中村恵理子-、佐藤勇一郎 / 宮崎大学構造機能病態 / 70 / 女性 / 子宮頸部 / 子宮頸部病変 / Lobular endocervical glandular hyperplasia (LEGH) / Lobular endocervical glandular hyperplasia (LEGH) / Lobular endocervical glandular hyperplasia (LEGH) /
- 座長 野元三治(鹿児島医療センター)
11. 島松一秀 / 大牟田市立病院 / 41 / 女性 / 子宮 / 子宮腫瘍 / Uterine tumor resembling ovarian sex-cord tumor / Uterine tumor resembling ovarian sex-cord tumor / Uterine tumor resembling ovarian sex-cord tumor /
12. 島尾義也 / 県立宮崎病院 / 63 / 女性 / 子宮 / 子宮腫瘍 / Leiomyosarcoma / Leiomyosarcoma / Leiomyosarcoma /
- 座長 田中弘之(宮崎大学腫瘍再生病態)
13. 田崎貴嗣 / 鹿児島大学分子砂防病理学 / 60 / 女性 / 子宮 / 子宮筋層内腫瘍 / Dedifferentiated leiomyosarcoma with heterologous element / Dedifferentiated leiomyosarcoma with heterologous element / Leiomyosarcoma /
14. 後藤優子 / 鹿児島大学人体がん病理学 / 83 / 女性 / 右卵巣 / 右卵巣腫瘍 / Clear cell adenocarcinoma arising in clear cell adenofibroma / Clear cell adenocarcinoma arising in clear cell adenofibroma / Clear cell tumor, adenofibroma type, borderline malignancy /
- 座長 高城千彰(鹿児島市医師会病院)
15. 内橋和芳 / 佐賀大学臨床病態学 / 43 / 男性 / 右前腕 / 右前腕骨腫瘍 / Chondromyxoid fibroma / Chondromyxoid fibroma / Chondromyxoid fibroma /
16. 児玉真一、田中弘之 / 宮崎大学腫瘍再生病態 / 39 / 女性 / 左腰部 / 左腰部皮下腫瘍 / Paragonimus westermanii infection / Paragonimus westermanii infection / Parasitic infection /
- 座長 平木 翼(鹿児島大学人体がん病理)
17. 立川量子 / 福岡大学医学部病理学 / 33 / 女性 / 左前腕 / 左前腕皮下腫瘍 / Pilomatricoma / Pilomatricoma / Pilomatricoma /
18. 後藤正道 / 国立療養所星塚敬愛園 / 32 / 男性 / 右頬 / 皮膚病変 / Buruli ulcer / Buruli ulcer / Infectious disease / 再発を繰り返す難治性皮膚潰瘍を見た場合にはブルーリ潰瘍も疑って下さい。

第338回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時:平成26年3月15日

場所:長崎大学医学部良順会館 ボードインホール

世話人:長崎大学大学院 探索病理 下川功教授

長崎大学大学院 腫瘍・診断病理学(原研病理)

/生体材料保存室(原研資料室) 中島正洋教授

長崎大学大学院 病態病理学 福岡順也教授

座長 東美智代(鹿児島大学人体がん病理学)

1. 三浦史郎 / 長崎大学原研病理 / 40代 / 男性 / 左耳垂 / 左耳垂皮膚病変 / Cutaneous metaplastic synovial cyst / Cutaneous metaplastic synovial cyst / Cutaneous metaplastic synovial cyst /

2. 野崎優衣-*本下潤一 / 九州大学形態機能病理 / 37 / 女性 / 鼻腔・副鼻腔 / 鼻腔・副鼻腔腫瘍 / Nasopharyngeal papillary adenocarcinoma / Nasopharyngeal papillary adenocarcinoma / Nasopharyngeal papillary adenocarcinoma /

座長 本田由美(熊本大学医学部附属病院病理部)

3. 鍋島篤典 / 産業医科大学2病理 / 72 / 男性 / 唾液腺 / 唾液腺腫瘍 / Basal cell adenocarcinoma / Basal cell adenocarcinoma / Adenoid cystic carcinoma / basal cell adenoma, ACCとの鑑別が論じられた。

4. 野口紘嗣 / 産業医科大学1-2病理 / 71 / 男性 / 頸部 / 頸部皮下腫瘍 / Multiple symmetric lipomatosis / Multiple symmetric lipomatosis / Symmetric lipomatosis /

座長 明石道昭(佐賀県医療センター好生館)

5. 内藤嘉紀-、西田直代 / 久留米大学病理学・聖マリア病院 / 60代 / 女性 / 右肺 / 肺腫瘍 / Sclerosing hemangioma / Sclerosing hemangioma / Sclerosing hemangioma /

6. 渡辺次郎 / 公立八女総合病院 / 50代 / 女性 / 胃 / 胃腫瘍 / Schwannoma / Schwannoma / Schwannoma /

座長 田中弘之(宮崎大学腫瘍再生病態)

7. 河田卓也-、岩崎啓介 / 長崎大学探索病理 / 50代 / 男性 / 十二指腸乳頭部 / 十二指腸乳頭部腫瘍 / Gangliocytic paraganglioma / Gangliocytic paraganglioma / Gangliocytic paraganglioma /

8. 神尾多喜浩 / 済生会熊本病院病理 / 77 / 女性 / 肝 / 肝腫瘍 / Carcinosarcoma / Carcinosarcoma / Hepatoblastoma /

座長 山元英崇(九州大学形態機能病理)

9. 田崎貴嗣 / 鹿児島大学分子砂防病理学 / 24 / 女性 / 肝 / 肝腫瘍 / Embryonal sarcoma / Embryonal sarcoma / Embryonal sarcoma /

10. 山元英崇 / 九州大学形態機能病理 / 西田陽登 / 大分大学診断病理学 / 69 / 男性 / 大網 / 腹腔内腫瘍 / Malignant mesothelioma / Malignant mesothelioma / Histiocytic sarcoma / 自然消滅と高度なリンパ球浸潤との関係が論じられた

座長 大谷博(白十字病院)

11. 井上律郎-、林博之 / 福岡大学医学部病理学 / 79 / 男性 / 膀胱 / 膀胱腫瘍 / Signet ring cell carcinoma / Signet ring cell carcinoma / Signet ring cell carcinoma /

12. 盛口清香 / 宮崎大学医学部付属病院病理診断科 / 70代 / 女性 / 左副腎 / 副腎腫瘍 / Composite pheochromocytoma (pheochromocytoma and ganglioneuroma) / Composite pheochromocytoma (pheochromocytoma and ganglioneuroma) / Composite pheochromocytoma (pheochromocytoma and ganglioneuroma) /

座長 安倍邦子(長崎大学病態病理学)

13. 柴瑛介 / 産業医科大学1病理 / 65 / 女性 / 右卵巣 / 右卵巣腫瘍 / Ovarian stromal tumor with minor sex cord elements associated with mucinous epithelial neoplasm / Ovarian stromal tumor with minor sex cord elements associated with mucinous epithelial neoplasm / Mucinous cystadenoma with stromal element / mucinous成分の転移の可能性も論じられた

14. 林洋子 / 長崎大学探索病理 / 60代 / 男性 / 小脳 / 小脳腫瘍 / Lipoastrocytoma / Lipoastrocytoma / Cerebellar liponeurocytoma / Lipoglioneytoma /

病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会:村田哲也(委員長)、望月 眞(副委員長)、深澤雄一郎(北海道支部)、増田友之(東北支部)、中村直哉(関東支部)、森谷鈴子(中部支部)、伊東恭子(近畿支部)、串田吉生(中国・四国支部)、大石善丈(九州・沖縄支部)